

平成 29年度 自己評価結果

【幼保連携型認定こども園】 いさお幼稚園

本園の教育目標

進んで物事をやり、友達と仲良くし、

豊かな心をもったたくましい子どもに育てる。

本園が目指す幼児像

- ◎ 一人ひとりに愛情あふれる保育を
- ◎ 集団生活の中で望ましい態度を
- ◎ 豊かな情緒と思考力の芽生え
- ◎ 最後までやりぬく強い心を

本年度重点的に取り組む目標、計画

1) 保育の質の向上のための取り組みを継続して行う

- ・保育教諭が幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟知し、園の教育理念についての理解を深め、保育計画の立案や保育実践に反映させる。
- ・子どもの姿を観察、記録することによって、子どもへの理解を深めるとともに、自らの保育を反省し、改善しながら保育の質の向上を目指す。

2) 保護者に対する情報提供に努める

- ・子どもたちの日々の様子や園での活動を、懇談・連絡ノート・学年便りなどを通して保護者にわかりやすく伝える。
- また、子どもの育ちの理解を保護者と共有する努力をする。

評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育の計画性	自園の保育理念や保育目標を十分理解したうえで、指導計画を作成した。 指導計画に基づいた環境構成を行い、子どもの主体性を尊重した。 年間、月間、日々の記録で保育の評価、反省を実践した。
保育のあり方 子どもへの対応	朝の視診、連絡ノートのチェックから始まり、一人一人の子どもの健康状態や家庭での状況を把握した。 保育教諭は子どもの援助者として、一人一人が十分に自己発揮、自己抑制、思いやりを持って成長出来るように子どもの思いを引き出す配慮に努めた。
研修及び 資質能力の向上	特別な支援の必要な子どもに対して、外部の専門機関と協力し合い、その子に合った指導や援助の計画を立てた。(支援が必要と思われる園児1名) 保育者間で共通の意識と理解を持てるよう職員会や朝礼の場を意見交換の場にした。
保護者への対応	保護者からの意見や質問には丁寧に対応し園全体で共有した。 不安や悩みを抱えている保護者に気づき、良き相談相手となって保護者の心の負担を軽減できるよう努めた。 個人の情報は外部に出さないように徹底管理した。

今後取り組むべき課題

◎教育の質の向上

全教職員がひとつのチームであることを意識し、保育・教育の充実に主体的に協力していく。

◎安全管理

不慮の災害に備えて、各教職員が普段から様々な状況を想定して、緊急時に対応できるように確認し教職員の安全対応能力の向上を図る

◎園内研修の充実

子どもの発達の姿を理解し、日々の子どもの姿について話し合う機会を職員会、朝礼の場で持つようにし、誰でも自由に意見が言える環境づくりをする。

総合的な評価

取り組むべき課題について全教職員が共通理解し、それぞれが自己評価した。
自らの評価、反省に基づき指導計画を作成し、保育を実践することに努力した。